

トシドン



トシドンは毎年12月31日（大晦日）の家、幼児のいる家々を訪れる祝福の神様である。

下甑の各地では、トシドンは天空や高い山や岩の上から首なし馬に乗ってくるといわれている。

シュロの皮やソテツの葉などを使い、鼻の長い恐ろしい顔をしたトシドンが3歳から8歳の子どもがいる家々を訪れ、外から「おるか、おるか、〇〇はおるか！来て障子ば開けー！」と言って家に入る。子どもたちの日頃の良いところを褒めたり、諭したり、子どもたちに歌を歌わすなどして、最後に年餅と呼ばれる大きな餅を与えて去っていく。

昭和52年5月7日国の無形民俗文化財に指定。平成21年9月30日ユネスコ無形文化遺産に登録。また平成30年に「来訪神：仮面・仮装の神々」として拡張登録された。

【奉納・披露】

日程：毎年12月31日

場所：下甑町（手打、片野浦、瀬々野浦、青瀬）の各家庭を訪問（対象児のいる家庭）